

## 父のくさい足

村永 紋玲愛 志布志市立有明小学校六年

私の父の足はくさいです。特に仕事から帰ってきた後のにおいは最強です。なので、父は仕事から帰つたら、まず靴下をぬいで、足を洗いに行きます。そこに私がいると、冗談が大好きな父は、くさい靴下を私に近づけてきて、にげる私を見て喜んでいます。父のことは大好きだけど、父の足のにおいだけは苦手で、父の足がくさくなればいいになといつも思っていました。

去年の十一月十四日の朝、父は通勤途中にけがをして病院に運ばれ、母と私たち兄妹は急いで病院に向かいました。病院で見た父は、両足を固定され、体のあちこちから血が出ていました。しつかり見られたのは父の悲しそうな顔だけでした。父は、右足に大きなプレートを入れる手術をして、一か月半の入院になりました。その間、父は、ずっとベッドに寝たきりだったのです。元気も体力もなくなっていきました。

自分で靴下をはけない父に、私はよく靴下をはかせてあげました。父はいつも

「ありがとう」

と言つてくれたけど、私はすごく悲しくなりました。それは、父の足がすごく冷たくて、元気がだつたときみたいに、くさくなかったからです。

年末、父は松葉杖づえで退院し、リハビリに通いながら歩く練習をしていました。そして、二月には仕事に復帰でき、父はまた冗談を言つて笑うようになり、家族みんなも笑い、家の中が明るくなりました。あのにおいも一緒に。でも今の私は、そのにおいがくさければくさいだけうれしくなります。

私が苦手だった父のくさい足。それは、父が元気で家族のために頑張つて働いてくれているという証。だから、今ではくさい足にも感謝しています。いつも頑張つてきてくれる父のために、私は、もっともつとくさい父の作業靴を洗つてあげたいです。

